

# 11月5日 教育委員会会議（臨時会）について

1 日時 平成26年11月5日 14:00～15:00

2 場所 小倉北区役所庁舎内 812会議室

3 参加者

教育委員 5名

委員長 古城 和子  
委員 吉田 ゆかり  
委員 シェルマ 直美  
委員 伊藤 一義  
委員 彌登 章  
教育長 垣迫 裕俊

北九州市学力向上検証改善委員（代表） 7名

委員長 福岡教育大学教授 坂本 憲明  
委員 福岡教育大学教授 井上 豊久  
委員 福岡教育大学教授 山元 悦子  
委員 福岡教育大学教授 清水 紀宏  
北九州市PTA協議会会長 藤田 武男  
あやめが丘小学校校長〔小学校代表〕 米田 敏彦  
守恒中学校校長〔中学校代表〕 大坪 和廣

4 検証改善委員の主な意見

## 大学教授より

(1) 国語科の指導について

(山元委員)

- ・授業の中に話し合う活動や書く時間を設定すること。各教科で表現したり、説明したりする活動を徹底することで効果が上がる。
- ・毎時間教室で行われている、聞いたり話したりする時間と空間こそ、言語活動が充実する場であると考え、自分の考えを話したり聞きあったりし、授業の最後に考えたことを短い言葉で書く。それが本質的な学力を育てることにつながる。

(2) 算数・数学科の指導について

(清水委員)

- ・学習規律を見直す必要がある。
- ・子どもたちが考える授業・表現する授業など、話し合い活動を1時間の授業の中に1回は取り入れると具体的に挙げているので推進していく。

(3) 子どもの表現力の育成について

(清水委員)

- ・他の人の発言に対して、足りないところを補う、分からないところを質問する、もっと別な言い方で分かりやすく説明するといった授業の展開が必要。
- ・子どもの意見が不十分だったとき、先生が言い直してしまうのではなく、そこがチャンスだととらえて、その子にもう一回表現させる、あるいは、他の子どもがその子の意見を受けてもっと別な表現をしていく、そのときが表現力の上がる瞬間である。その瞬間を先生が奪っているのではないかと思う。指導の改善は絶えずしていかななくてはならない。

(4) 家庭学習について

(井上委員)

- ・全般的に、先生方の学力向上に対する意識は高まっている。徹底していくことが課題。
- ・家庭学習の絶対量の不足とメディア接触時間が北九州市の大きな課題。
- ・メディアとか携帯に関して、北九州市はパンフレット等を作って、早くから取り組んでい

る。学校の徹底と同時に、家庭学習に対する基本的なところをどう改善していくかが大事。

- ・家庭学習チャレンジハンドブックは、生活習慣を見直し、保護者自身が家庭学習に関する関心や重要性を感じてもらえ、内容的に分かりやすい形で示し、素晴らしいものである。今後これをどう活用していくかが重要である。
- ・基礎学力がついていない子どもたちが多いということであるから、補足的、一人一人にあった学習の支援が今後必要である。子どもひまわり学習塾に対する期待が大きい。
- ・家庭の状況が厳しい子どもたちも見られる。ひまわり学習塾の中で、勉強と同時に、一緒に寄り添う形で指導していただけるとよいと思う。
- ・ひまわり学習塾の指導員確保については、PTA、地域との連携が不可欠である。家庭学習とメディア接触時間についても、保護者、地域との連携が不可欠である。

#### (5) 本市独自の学力調査について

(井上委員)

- ・考える力、しっかりと応用力もつくような成果が見える形で示していくには、独自の全国学力・学習状況調査と方向性を合わせた試験をしていく。他市町村でも似たような試験を行い成果が出ているところもある。

(坂本委員長)

- ・北九州市の市民が誇りを持つこと、そして、学校にいる子どもたちが自分の学校に誇りを持つことが大切。
- ・山口県教委もこういう傾向のテストを行って、効果を上げている。ただ、テストだけでは長続きしないので、文科省の資料に基づいて、授業を変えなければならない。

#### PTA協議会会長より

(藤田委員)

- ・ひまわり学習塾は、保護者の立場からも、ここで予習復習して学校から帰れるというのはよい企画である。今後の拡充も必要。PTA理事会の折に、教育委員会の課長から説明していただいた。保護者にも広く周知しなければならない。

#### 小中学校校長より

(大坪委員)

- ・数学には非常に危機感をもっている。学力を上げるためには、反復・継続・徹底が必要。
- ・数学の先生に、過去の問題を参考にした問題を作成させ、全中学校に示して、春休みの課題や課題テストとして活用してもらおう。先生方の意識を高めることにもつながる。

(米田委員)

- ・低学力の子どもに対しては「ひまわり学習塾」の拡充は大切であり、それと同時に指導員の確保が必要で、PTAや地域の協力が望まれる。
- ・学力向上プランを作成する際に、5年生の状況を基に資料として作成していくが、新規に本市独自の学力学習状況調査を行うことは、経年比較ができたり、5学年の状況を把握できたりして、学校として非常にありがたい。また、考える時間の確保・活用する時間の確保・学習規律の徹底など各自の指標をもち、授業改善をすすめることができると考える。
- ・少人数授業についても、習熟度別であったり、課題別であったりする授業が必要で、課題別といった点については、小学校における専科指導の拡充が求められる。
- ・学校の「荒れ」や「問題行動を起こす子ども」「特別に支援を要する子ども」などを支えるハード面での対策も必要である。